

産婦人科部長 先生 御机下  
産科部長 先生 御机下  
HIV 感染妊婦担当 先生 御机下

## 2023 年「HIV 感染妊婦の実態調査」にご協力をお願いいたします

拝啓

時下ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

昨年までの全国調査にご協力いただき誠にありがとうございました。本年も同様の調査を実施したく、貴施設にご協力をお願い申し上げます。

本研究は、わが国の HIV 感染妊婦とその出生児の実態を把握するため 1998 年より調査を開始しました。全国の産婦人科および小児科の先生方のご協力のもと、そのご報告をいただいております。これまでの調査により、わが国の HIV 母子感染率は適切な母子感染予防対策を講じれば 1%未満にまで抑制可能なことがわかりました。HIV 検査をはじめ、母子感染予防対策のさらなる普及啓発の必要性を認識しており、今後も現状を調査し、HIV 母子感染予防のための診療体制の確立に寄与したいと考えています。ご多忙中、大変恐縮ではございますが、本調査の意義をご理解いただきご協力くださいますようお願い申し上げます。昨年度までの研究成果は、研究班 web サイト (<http://hivboshi.org>) にてご覧いただけます。

産婦人科一次調査の質問用紙をお読みいただき、回答は同封の回答ハガキにご記入ください。ご記入いただいたハガキは、2023 年 10 月 20 日 (金) までにご投函くださるようお願いいたします。「症例あり」とご回答をいただいた先生には、産婦人科分担任 (研究分担任: 杉浦 敦) より、あらためて詳細調査 (二次調査) をお願いする予定です。その折にもご協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、集計および公表においては個人情報の守秘義務を遵守し、患者とその家族および貴施設や担当医師には一切のご迷惑をおかけしないことをお約束いたします。本一次調査は、岩手医科大学医学部の倫理委員会の承認を得て実施しています。

敬具

2023 年 10 月 1 日

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業

「HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」

研究代表者: 喜多恒和 奈良県総合医療センター 産婦人科

研究分担任 「HIV 感染妊婦とその出生児の発生動向および妊婦 HIV スクリーニング検査等に関する全国調査」

研究分担任者: 吉野直人 岩手医科大学 医学部微生物学講座

研究分担任 「「HIV 感染妊娠に関する臨床情報の集積と解析およびデータベースの更新」

研究分担任者: 杉浦 敦 武蔵野赤十字病院 産婦人科

小児科一次調査返信先: 吉野直人

(全国調査集計局)

岩手医科大学 微生物学講座 感染症学・免疫学分野

〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通 1-1-1

電話: 019-651-5111 (内線 5791)

E-mail: [pmtct hiv@iwate-med.ac.jp](mailto:pmtct hiv@iwate-med.ac.jp)

2023年（令和5年度）産婦人科一次調査 質問用紙（病院）

（回答は同封のハガキにご記入ください）

妊娠の転帰にかかわらず、貴施設での HIV 感染妊婦の診療経験をお教えてください。

・他施設へ紹介した妊婦、貴施設では中絶処置や分娩に至らなかった妊婦、妊娠中も含みます。

質問 1、2 の期間に分けてご回答ください。

HIV 感染妊婦の診療経験がない場合は質問 1、2 の「なし」に○をつけ、質問 3 以降にご記入いただきご返送お願いいたします。

分娩は取り扱わないが妊婦健診を行っているご施設からのご回答も母集団を集積する上で大きな意味を持っております。

質問 1. 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに貴施設を受診した HIV 感染妊婦

なし

あり・・・ハガキの（ ）内に症例数をご記入ください

質問 2. 質問 1 以前の 2022 年 3 月 31 日までに貴施設を受診され、

本調査に未報告または報告したか不明の HIV 感染妊婦

なし

あり・・・ハガキの（ ）内に症例数をご記入ください。

質問 3. 貴施設での妊婦健診（母子手帳を持参の診察）の実施の有無

実施 ・ 実施せず

質問 4. 貴施設での 2022 年 1 月から 12 月までの分娩件数（件）（概数でも構いません）

\* 分娩の取り扱いがない場合は、「0」をご記入ください。

質問 5. 貴施設での妊婦に対する HIV スクリーニング検査の実施率（％）

（概数で構いません。集計の都合上、具体的な数字をご記入ください）

\* 帰省分娩等で自施設での検査を実施していない場合でも、母子手帳、紹介状などで

他施設での検査結果が確認できれば検査実施として扱ってください。

\* 検査を全例（100％）に行わない場合、その理由もご記入ください。

質問 6. 妊娠初期に HIV スクリーニング検査を行い、陰性を確認した妊婦について

\* 全国調査研究報告書にもありますように、HIV 母子感染は近年も散発しています。特に近年は妊娠中・産褥期の母体感染によると思われる母子感染例が報告されています。

質問 6-1. 妊娠中期～後期健診における HIV 再検査の実施

- ① 全例に実施する
- ② 一部の妊婦に実施
- ③ 全例に実施しない

質問 6-2. 前述の質問 6-1 で『② 一部の妊婦に実施』の場合、再検査を行った対象  
(複数選択可)

- a. 帝王切開などの術前検査
- b. 帰省分娩などの転院
- c. 妊娠初期 HIV 検査で偽陽性
- d. 妊娠中に HIV 感染初期症状 (発熱、頭痛、倦怠感などのインフルエンザ様の症状)
- e. 妊娠初期 HIV 検査以降に他の性感染症検査が陽性
- f. 妊娠中に性風俗産業に従事・利用、複数のパートナーとの性行為
- g. 薬物使用 (麻薬等の静注)、妊娠中に入れ墨の施術
- h. その他 (カッコ内にご記入ください)

質問 6-3. 妊娠中期～後期健診で HIV の再検査を全例、または一部の妊婦 (ハイリスク群 :  
上記選択肢 e、f、g) に行うことに関してのご意見 (自由記載)

質問 7. ご回答いただいた先生のお名前と医療機関名・診療科

ご協力ありがとうございました。プライバシー保護シールを同封いたしましたのでご利用ください。  
本研究班へのご意見、お送りいたしました宛先等に変更がございましたらハガキにご記入ください。  
なお、本調査は、産科または産婦人科を標榜するご施設にお送りしていますが、該当科がない等の場合は  
ご容赦いただくとともに、その旨ハガキにご記入いただきご投函いただければ幸いに存じます。

---

ご記入者名と連絡先は、ご回答に不備があった場合の照会と二次調査以外は使用いたしません。  
ご提供いただいた情報は、本研究班での調査にのみ使用し目的外利用をいたしません。  
情報は班研究業務上必要な範囲に限定し適切に管理します。情報は第三者に開示いたしません。

～～産婦人科二次調査 (詳細調査) についてお知らせ～～

本調査の質問 1 または質問 2 で「HIV 感染妊婦の診療経験あり」の場合、産婦人科分担任より二次調査へのご協力をお願いしております。二次調査は、Electronic Data Capture (EDC : 独自システムによる電子的臨床データ収集) で実施いたします。Web 入力での二次調査やお問い合わせに使用させていただくため、メールアドレスのご記入 (任意) をお願いいたします。なお、従来通り母子感染二次調査用紙にご記入の上、郵送での回答も可能です。該当施設の先生には、二次調査について産婦人科分担任よりご案内いたします。引き続きご協力の程よろしくをお願いいたします。